

技術開発実施報告・計画

課題	亜熱帯性広葉樹天然林の施業方法について		継続・新規	担当	造林課	開発	沖縄
目的	広葉樹天然林の保育方法を究明して、森林内容の充実を図る施業方法について検討する。		指示・自主	当	造林課	箇所	沖 縄
			開発期間	昭和61年度 ~ 平成7年度			
年度別実施経過	元年度 実施報告	元年度 実施計画	備考 (評価及び普及計画等)				
	1. 隔年毎の調査のため今年度の調査なし。	1. 隔年毎の調査のため今年度の調査予定なし。					
	事業費 (技術開発) _____ 千円	事業費 (技術開発) _____ 千円					

技術開発課題報告書 (元年度実施報告)

熊本営林局

課題	亜熱帯性広葉樹天然林の施業方法について	継続・新規別	新規	担当	造林課	開発箇所	沖縄 営林署	昭和61年度
		指示・自主別	自主					平成 7年度
年度別実施経過		元年度実施報告				評価		
<p>1. 試験地設定 (61年度, 63年度)</p> <p>(1) 場所 平良国有林1い林小班 (63年度は前回と同じ設計で追加設定)</p> <p>(2) 面積 0.64ha (61年) 0.64 (63年) 計 1.28ha</p> <p>試験地区は, 次の4つに区分した。</p> <p>ア. 強度の除伐区 (本数比40%)</p> <p>イ. 中度 " (" 25%)</p> <p>ウ. 弱度 " (" 10%)</p> <p>エ. 対照区</p> <p>2. 除伐前後の林分調査, 相対照度調査 (61~63年度)</p> <p>3. 除伐実行 (")</p>		隔年調査のため該当なし。						
		事業費 (技術開発) _____ 千円						

技術開発実施報告 ~~計画~~

様式2

課題	亜熱帯性広葉樹天然林の施業方法について		継続・新規	担当	造林課	開発所	沖縄
目的	広葉樹天然林の保育方法を究明し、森林内容の充実に資する施業方法について検討する。		指示・自主				
年度別実施経過			2年度 実施報告	3年度 実施計画		備考 (評価及び普及計画等)	
			<p>1. 昭和60年度及び昭和61年度追加設定箇所林分調査</p> <p>(1) 相対照度調査</p> <p>(2) 樹種別林分調査</p> <p>2. 場所 平良国有林ノ1林小沢</p>	<p>平成6年度に調査予定のため3年度は計画なし。</p>			
			事業費(技術開発) _____ 千円	事業費(技術開発) _____ 千円			

試験経過記録

区分自主

沖縄 森林署

(様式4)

天然林改良試験 径級成長量の推移
昭和61年度設定区

	昭和61年度	昭和63年	率	平成2年度	率
対称区	43.9	52.0	118%	56.5	129%
強度除伐区	43.5	56.1	129%	61.0	140%
中度除伐区	60.1	68.7	114%	71.0	118%
弱度除伐区	49.3	53.4	108%	55.1	112%

樹高成長量の推移

	昭和61年度	昭和63年	率	平成2年度	率
対称区	42.8	47.1	110%	48.9	114%
強度除伐区	43.6	44.2	101%	47.9	110%
中度除伐区	47.1	56.9	121%	60.3	128%
弱度除伐区	39.7	45.4	114%	49.2	124%

相対照度の変化

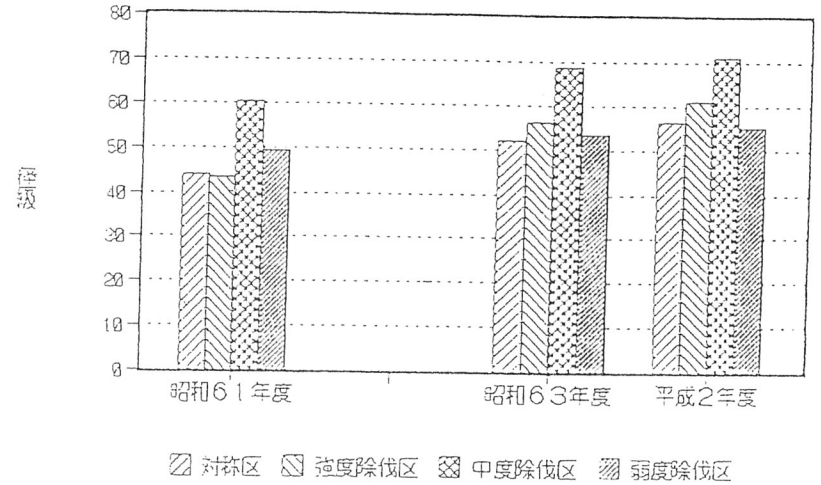
	S61	S63	H2
対称区	1.1	1.6	1.5
強度除伐区	12.1	17.7	16.1
中度除伐区	4.8	12.7	12.4
弱度除伐区	5.6	7.2	8.4

注 成長量の比較は各年度共、先枯れ木を除く総体の一割抽出により比較した。

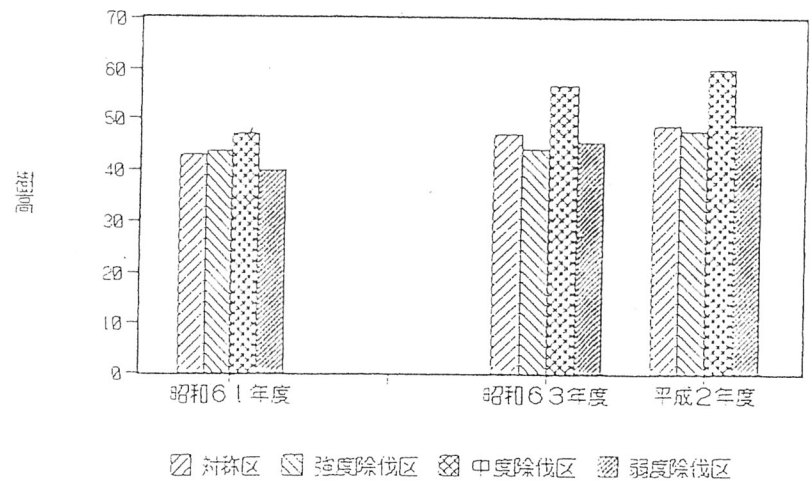
調査結果

- (1) 径級成長率では、強度除伐区で対称区より優位性が認められる。
- (2) 樹高成長率では、中度及び弱度除伐区で優位性が認められる。
- (3) 中度除伐区で径級、樹高共に単純比較で優位性がみられるのは地形(谷筋)、土壌の条件が他に比して良好のためである。

径級成長の推移



樹高成長量の推移



- 記載要領
- 1. 調査結果及び写真を記入する。
 - 2. 状況写真は別途整理する。

試験経過記録

区分 | 自主

沖縄

営林署

(様式4)

天然林改良試験 径級成長の推移
昭和63年度設定区

	昭和63年度	平成2年度	率
対称区	57.6	59.4	103%
強度徐伐区	71.6	74.4	104%
中度徐伐区	63.2	65.0	103%
弱度徐伐区	61.4	63.4	103%

樹高成長の推移

	昭和63年度	平成2年度	率
対称区	57.5	61.5	107%
強度徐伐区	59.0	66.3	112%
中度徐伐区	53.5	60.3	113%
弱度徐伐区	61.2	64.9	106%

相対照度の変化

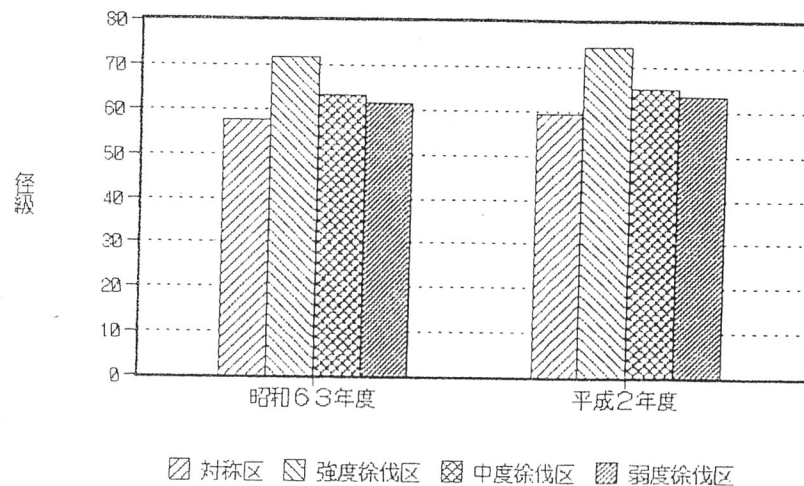
	S63	H2
対称区	1.7	2.0
強度徐伐区	6.9	6.3
中度徐伐区	4.8	5.0
弱度徐伐区	2.9	2.6

注 成長量の比較は各年度共、先枯れ木は除く総体の一割抽出により比較した。

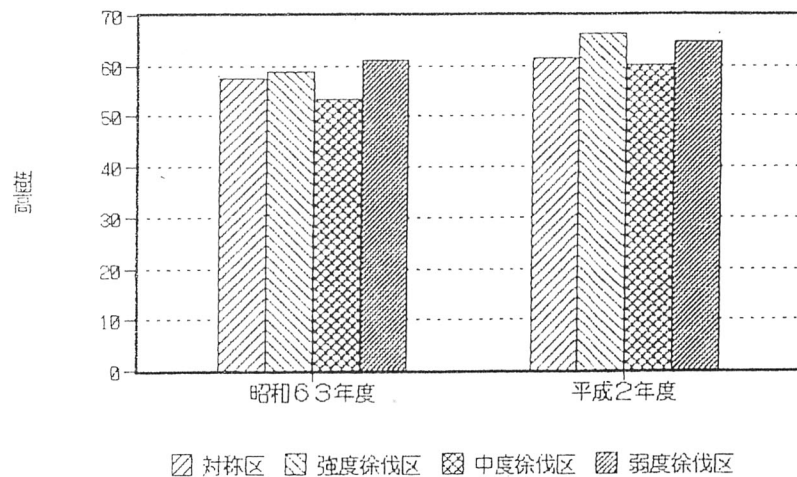
調査結果

- (1) 二年経過後の成長率は、径級では各プロット共、対称区に比べ優位性は認められない。
- (2) 樹高では強度、中度徐伐区で優位性が認められる。

径級成長の推移(63設定区)



樹高成長の推移(63設定区)



- 記載要領
1. 調査結果及び考察を記入する。
 2. 状況写真は別途整理する。

状 況 写 真

区 分 自 主

冲 縄 营 林 署

(様 式 6)



昭和六十年設置



状 况 写 真

区分 自主

沖縄 営林署

(様式 6)



御物六三高波老区

